

自衛隊富士病院で知る「健康を守る自衛官」



富士地域事務所（所長・大石雄一²等陸尉）は3月13日（水）、自衛隊富士病院（駿東郡小山町）で歯科・薬剤科幹部候補生受験希望者の研修を行った。

自衛隊の歯科医官・薬剤官は、歯科医師・薬剤師として隊員等の診察や、国際平和協力活動、災害派遣等に従事する幹部自衛官。今回は、一般大学の薬剤科に進学する学生と民間で働いている歯科医師から、「自衛隊病院での勤務環境や仕事内容を知りたい」との依頼があり、同病院の協力を得て研修を実施した。

当日は、同病院で勤務する前任診療部長、衛生資料課長との懇談に加え、歯科診療室、薬局、外来病棟、レントゲン室、臨床検査室等の見学を行った。懇談では、歯科医官と薬剤官の職務内容やキャリアパスの話聞き、参加者からは「民間との違いを感じることは何ですか」「試験に向けて心掛けることはありますか」と将来を見据えた質問が寄せられた。

質問を受けた担当者は、歯科治療に関する民間との違いを「口腔外科や形成外科なども含めたオールラウンドな知識と技術が求められる。また、民間では審美性を追求する流れもあるが、自衛隊では隊員の健康管理と治療が第一」などと詳しく説明した。その後の施設見学では、実際の歯科医療の現場や薬局を見学し、自衛隊病院のシステムや一般病院との違いなどを確認した。

研修終了後、参加者は「直接話を聞いて、民間と自衛隊の違いをしっかりと知ることができた」「薬剤官の仕事をもっとイメージすることができた」と感想を話していた。

富士所は、今後も自衛隊に興味のある若者を対象に研修などを行い、自衛隊の認知度向上やイメージアップを図っていく。

入隊者と広報官が笑顔で再会

浜松所は、今後も入隊者とその家族との繋がりを大切に、募集活動に邁進していく。

「これから3カ月間は厳しい訓練があると思うが、同期とともに励まし合い、助け合って頑張り！」と激励すると、「はい！頑張ります！」と、笑顔で元気な声を聞くことができた。

式終了後、入隊者たちは制服から迷彩服に着替え、家族との懇談や記念撮影を楽しんだ。

広報官もそれぞれ担当した入隊者たちと再会し、「これから3カ月間は厳しい訓練があると思うが、同期とともに励まし合い、助け合って頑張り！」と激励すると、「はい！頑張ります！」と、笑顔で元気な声を聞くことができた。

当日は天候に恵まれ、桜が満開の中、両所が担当した100人の入隊者が同期とともに真新しい制服に身を包み、緊張と今後の希望に満ち溢れた表情で式に臨んだ。

式に先立ち、しっかりと隊列を組んで隊舎から会場へと行進する姿は着隊してから10日ほどとは思えない威容を誇り、入隊式に参列した家族は感嘆の声を上げてシャッターを切っていた。



春の全国交通安全運動に合わせ、車両整備教育を実施



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・田代裕久¹等陸佐）は4月8日（月）、本部庁舎前（静岡市）において車両整備教育を実施した。

これは春の全国交通安全運動に合わせ、隊員の交通安全意識の高揚と安全な車両運行のための知識を付与する目的で行ったもの。

日常的に車両を運行する際にチェックする項目を総務課管理班の隊員が一つ一つ実践しながら説明し、エンジンオイル等各種液類やタイヤの状況確認などに注意する点を伝えた。

また、トランク下に入っているけん引用具やタイヤ用チェーン、工具セットなど、普段使用する機会のない用品も取り出して示し、非常時にも冷静に対応できるように、要領などを共有した。

今回教育を実施した管理班の隊員は「人々の安全を守る自衛隊員であるという自覚を持ち、整備を確実に実施して安全な車両運行を行ってほしい」と、隊員の意識向上を期待した。

静岡地本は、今後も各種教育を確実に実施し、情報と知識の共有を図っていく。